



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	新ピア・サポート室開室にあたって：ピア・サポートのこれまでの活動と今後の展望
Author(s)	岡本, 健
Relation	新ピア・サポート室開室記念お披露目式. 2010年11月4日. ピア・サポート室 (北海道大学情報教育館 2F) 札幌.
Issue Date	2010-11-04
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/44129
Type	conference presentation
File Information	okamoto_pia.pdf



新ピア・サポート室開室にあたって —ピア・サポートのこれまでの活動と今後の展望—

新ピア・サポート室開室記念お披露目式

2010年11月4日

於：ピア・サポート室

(北海道大学 情報教育館 2F)

ピア・サポート学生代表
岡本健

(北海道大学大学院 国際広報メディア・観光学院
観光創造専攻博士後期課程所属)

ピア・サポートの背景

- 大学生生活には数多くの**悩み**がある。

学生生活

学問・研究

就職・進路

etc.

- 悩みがあること自体は問題ではない、
- 従来であれば様々な人に相談するなどして、
悩みを解決してきた。
- しかし、**個人化**が進んだことでふとした時に相談できる
相手がいない場合が出てきている。
- 一方で、学内では、**学生支援のための組織やシ
ステム、人材**といった資源がすでにある。
- 学生とそうした組織を**つなぐ役割**を担う組織が必要

ピア・サポート活動の概要

☆ピア・サポーターが、学生からの相談を受け、その解決をはかる、あるいは、解決が可能な組織を紹介することが主たる業務

☆ピア・サポーターの構成

- 学部生：6人（男性3人、女性3人）
- 大学院生：5人（男性2人、女性3人）

☆2009年11月に試行、
2010年4月より本格稼働

☆ボランティア相談室を
間借りしていたが、2010年10月より専用の部屋に移転



旧ピア・サポート室の様子

「ぴあのわ」に参加(ピアサポーター6名・教員2名・事務職員1名が参加)

1. ピアサポーターの情報交換の場(名古屋工業大学中心)
2. 今回(2010年1月9日)で3回目
3. 今回の参加大学
名古屋工業大学、名古屋大学、
三重大学、日本福祉大学(初)、
北海道大学(初)
4. それぞれのピアサポーターが現状や
今後の課題、相談事例などを発表。



「ぴあのわ」の様子



集合写真

次回も参加予定

「ぴあのわ」で学んだこと

1. 広報の重要性

ピアサポートシステムの周知が必要

2. 組織としての役割の明確化

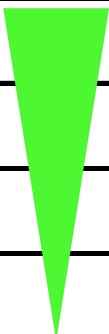
ピアサポートは誰のために何をするのかを
関係者および利用者が位置づけることの重要性

3. 成員の維持

サポーターのモチベーションの維持および、
人材の確保の工夫の必要性

表1. 相談人数(単位:人)

2010年4月	15
2010年5月	4
2010年6月	3
2010年7月	1



工学部、文学部、医学部のみ

学部1年、修士1年など、新入年度のみ

他大でも課題とされている利用者減によるメンバーのモチベーション低下が問題

本当に悩みが少ないのであればこんなに素晴らしいことは無いが、実際はそうではない。

表2. 相談者の学部と学年(単位:人)

	学部1年	修士1年	合計
工学部	5	0	5
文学部	1	2	3
医学部	2	0	2
合計	8	2	10

表3. 相談内容と相談数(単位:人)

相談内容	相談数
道案内	6
履修	5
アルバイト	3
授業	2
ボランティア	2
サークル	2
学生生活全般	1
資格・試験	1
その他	1

表4. 相談者の滞在時間

	min
最小値	1
最大値	90
平均値	19.9
標準偏差	24.2

n = 19

相談内容は多様。
また、じっくりと話しているうちに
様々な悩みの掘り起しができる場合も。

つまり、来室していないが、
悩みを抱えていたり、
悩みの種はあるが、無意識にしまっ
ている可能性も。

交流創出イベント「本活」を実施

企画の背景

- ♪ピア・サポートの広報として(組織と場所の周知)
- ♪ピア・サポーターの実地訓練の場として
(サポーターのコミュニケーション能力の向上)
- ♪学生のサポートニーズに関するデータ収集として
(聞き取りおよびアンケート調査)

実施概要

- ♪いらなくなった本を回収し、これから使う学生に受け渡す
- ♪本の回収時には、文房具等と交換
- ♪本の頒布は無料、ただし、アンケート記入を必須

ピアサポート学生生活活性化企画

～本活～

いらなくなった本や教科書、参考書
があれば、是非お持ちよりください。

(マンガ・雑誌等、一部引き取りができないものもありますが、ご了承ください。)

協力してくださった方には、冊数・金額に応じて
もれなく粗品をプレゼントいたします。

★粗品例★

1冊以上…ペン、クリアファイル

10冊以上…USBメモリー などなど

回収場所：ボランティア室（高等教育機能開発総合センター N109）

回収日：3月16日～30日の(火)と(木) 14時～16時30分

4月 5日(月)～9日(金)

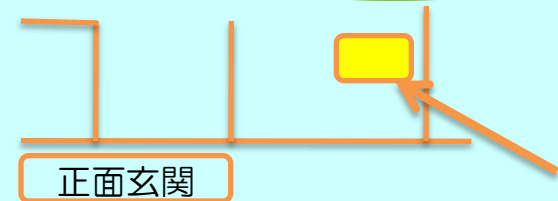
月・水・金11時～15時、火・木11時～17時

※「ピアサポート」とは…

学生の、学生による、学生のためのサポート活動です。

学生生活の悩み、疑問を一緒に解決します。

《予告》今回回収した本は、4月12日～16日にボランティア室
にて無料で頒布します。探してた本が見つかるかも！！



正面玄関

ボランティア室

ピアサポート学生委員会

連絡先：011-706-7454（高機能センター学生支援課）

honkatsu@gmail.com（ピアサポート学生委員会「本活」担当）

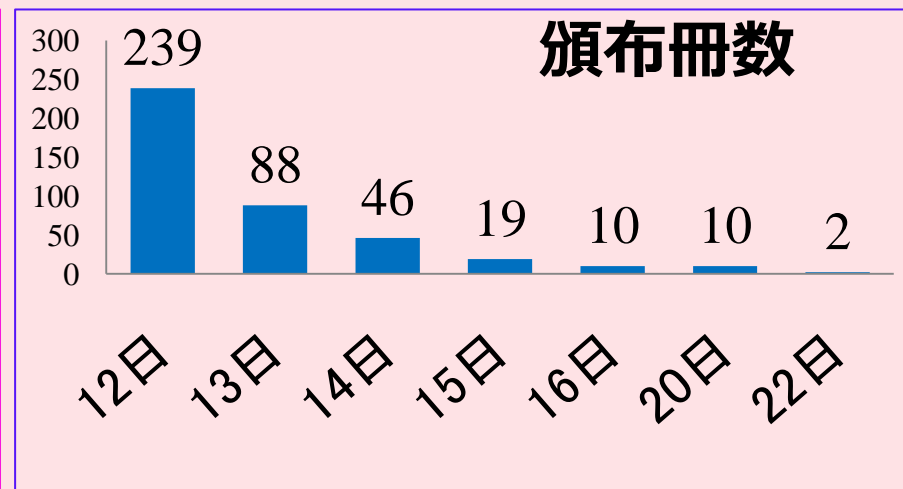
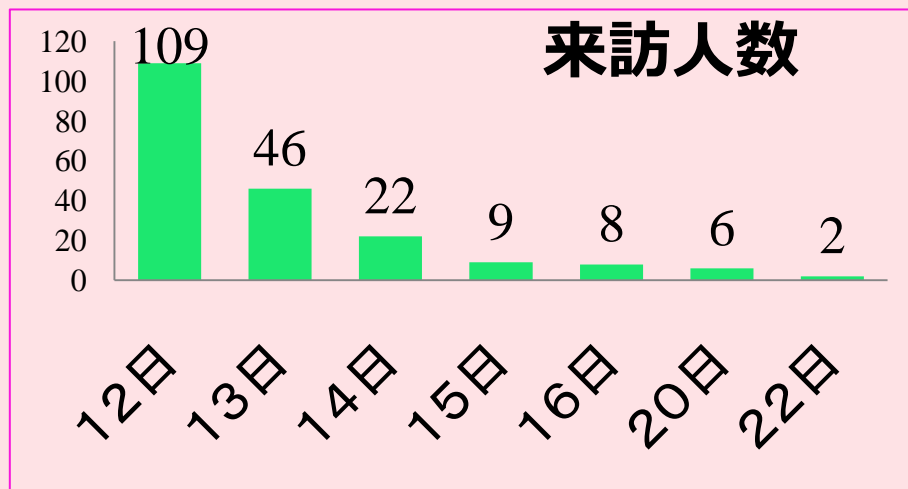
結果

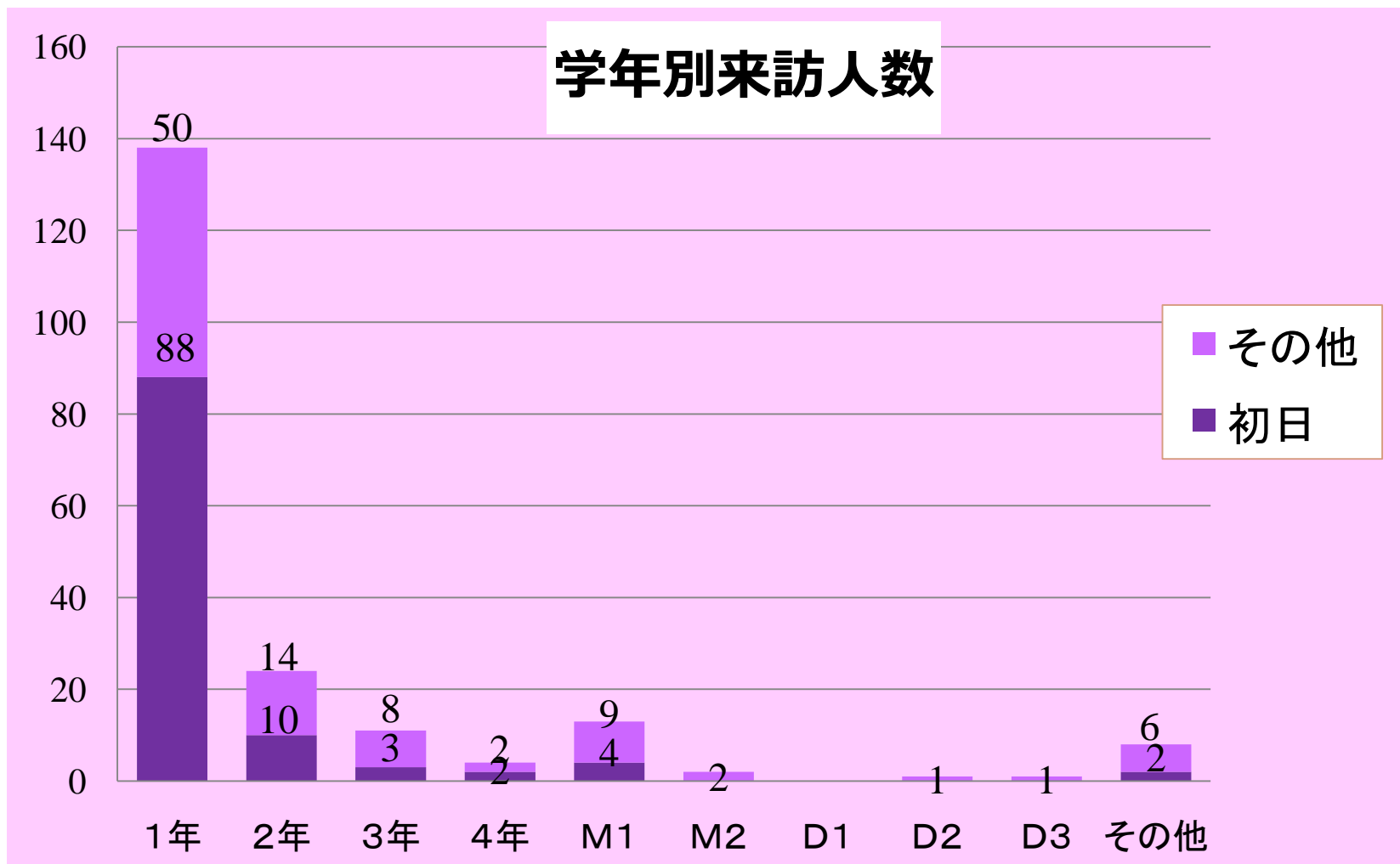
■ 2月、3月、4月に本を回収

•→計492冊の書籍を回収

■ 4月中旬一週間が頒布期間

•→約400人が来訪。202人に414冊の書籍を頒布









■ 2月、3月、4月に本を回収

•→計492冊の書籍を回収

■ 4月中旬一週間が頒布期間

•→約400人が来訪。202人に414冊の書籍を頒布



- ・予想を上回る来場者数
- ・本を通してコミュニケーションが促進される
- ・立ち話であっても、軽い相談を解決することができた
- ・ピア・サポートの周知
- ・ピア・サポーターのモチベーションアップ

何をきっかけに本活を知りましたか？

紙媒体	128	クラオリパック	24
		ポスター	25
		不明	79
人づて	56		
たまたま通りかかった	12		
不明・その他	11		

本を選んだ理由はなんですか？

- ・授業で必要な教科書だから
- ・今後、専門分野の参考になりそうだから
- ・語学・資格の勉強のために
- ・趣味（小説の内容に興味があったから 等）

教科書のニーズが高い。

学習や趣味、資格などの自分の成長に資する動機。

「学生生活で力を注ぎたいこと」

学習面	127	62.9%
課外活動(部活・サークル)	62	30.7%
アルバイト	16	7.9%
読書	7	3.5%
生活	5	2.5%
資格取得	3	1.5%
その他	46	22.8%
無記入	13	6.4%

「学生生活で不安なこと」

勉強	58	28.7%
生活全般	32	15.8%
金銭	17	8.4%
進路	15	7.4%
大学生活	14	6.9%
人間関係	12	5.9%
その他・不明	27	13.4%
ない	20	9.9%
無記入	22	10.9%

学習面に関して、力を注ぎたいが不安、という現状が見えた。

不安なことが無いという人は1割程度しかいない。

ピア・サポート活動の今後

効果的な**広報**のためには、**組織の位置付け**の明確化が必要。逆に、**組織の位置付け**が明確化していれば、的確な**広報**が可能に。

広報

広報によって相談者が増えたり、相談員が増えることで、成員の**モチベーション**および**人材**の維持につながる。逆に、成員の**モチベーション**が高く、**人材**も良ければ、そのこと自体が**広報**になっていく。

組織の位置付け

成員の維持

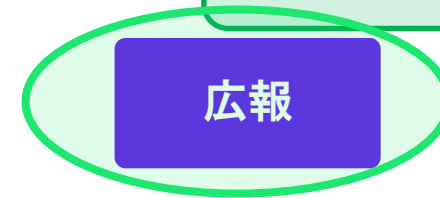
- ・モチベーション
- ・人材

組織の位置付けが明確化すると、成員は「誰のために何をしているのか」という自分の位置付けを理解することになり、**モチベーション**が高まる。逆に成員それぞれが、自分の**活動の位置付け**を明確化することにより、**組織の位置付け**も明確化される。

今後の展開

- ①**広報ビデオ制作**
ピア・サポートのマーケティングをメンバーで考え、映像を制作。
- ②**ピア・サポート・カフェ(新ピア室)**
相談の敷居を下げるために、学生同士の交流の場をデザイン。

ピア・サポート活動の今後①



1. ピア・サポートの効果的な周知の必要性

2. チラシやビラ？

3. これらは宣伝媒体であって、
情報を提供するものでしかない。

4. また、一人の力でできてしまい、
メンバーが組織の位置づけを考える機会にはならない。

5. それ自体を見ることで面白さが得られる「コンテンツ」を作ろう。

6. 多くの人に関わることのできる映像メディアにしよう。

2万5千年前・・・

クラーク星人は未開の北大に降り立ち、人々に知恵を授けた
人々はその知識を使い、科学技術を発展させた
北大は繁栄をきわめた

ノーベル賞も取った

しかし

北大生の中には、様々なことで悩み、苦しむものが現れはじめた・・・

その様子を見た クラーク星北大監察院第三支部特派員

Wasabi Sushi Clark

北大の現地調査を敢行する。

様々な苦悩にさいなまれる北大生たち・・・。

「北大も変わっちまった・・・」

そう思った

その時・・・

くらくせんたい
三 苦楽戦隊 三

ピアレンジャー

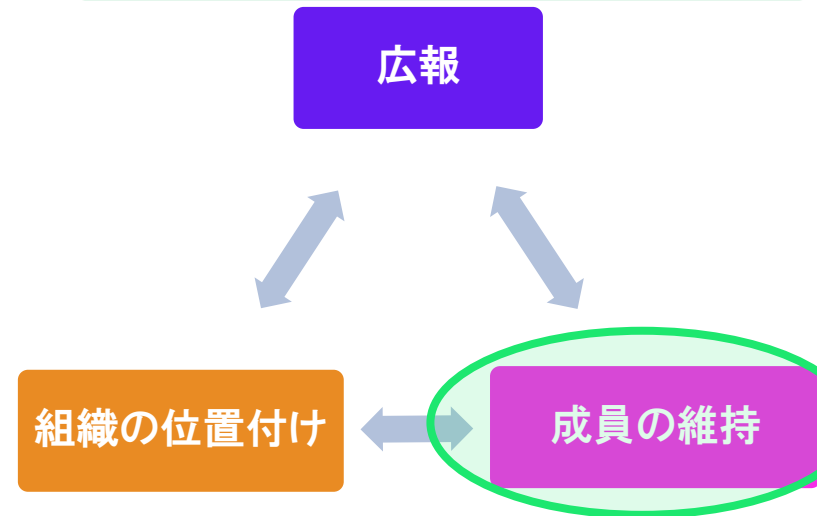
撮影快調！



ピア・サポート活動の今後②

1. ピア・サポートの学生の高齢化
2. シフトが週2回から3回へ
3. 学生の趣向なども極めて移り変わりが早い
4. たとえば、1976年生まれ、1986年生まれ、1996年生まれでは、ICT(情報通信機器)の使い方が違う。
ネオ・デジタルネイティブ
5. 様々な世代で多様な人々が組織にいるべき
6. 新メンバーにどうやって入ってもらうか。

新メンバーの加入-1



橋元良明・奥律哉・長尾嘉英・庄野徹
(2010)「ネオ・デジタルネイティブの誕生」
ダイヤモンド社

ピア・サポート活動の今後②

新メンバーの加入-2

☆友人関係ばかりでは、同質化を生む・・・

☆完全に公募をすると、アルバイト感覚で来られる・・・

☆頼み込むと、主体性が弱い可能性がある・・・

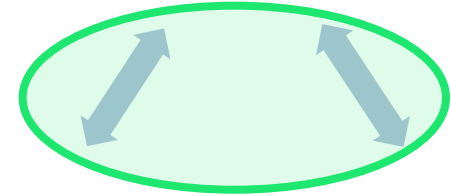
松田先生の授業での呼びかけ

上のことに気を付けた上での勧誘

ピア・サポート活動の今後③

ピアカフェ

広報



組織の位置付け



成員の維持



1. 新ピア室を活かす

2. オープンスペース的活用？

3. それは一階にもある、学食だって使える、

4. 一人でゆっくりできる場所があまり無い

5. 相談者の垣根を減らせるような緩衝地帯が必要

6. メンバーにも緊張感を

7. 他組織とのコラボレーション企画

8. プラットフォームを作ってはどうか

ご清聴ありがとうございました！

